

MJOT会報発刊に寄せて

在ハンガリー日本大使館 松本 和朗 大使

ハンガリー日本語教師会会報第1号の発刊おめでとうございます。

私はハンガリーに着任以来9ヶ月になります。その間特に印象深いことの一つに、当国における日本語学習意欲があります。小学校で日本語が教えられていることも嬉しい驚きですし、本年10月の日本語スピーチ・コンテストに参加された皆様の熱意と日本語学習者の学習成果の高さに関心しました。着任以来、日本語を話す多くのハンガリー人に会い、特に若い方達に日本語学習の熱意を見ることもできました。現在当国での日本語学習者数は850人で、欧州の中で9位という数字こそ、ハンガリーにおける日本語教育の水準の高さを示すものです。ハンガリー日本語教師会は、国際交流基金の支援を得て、本年2月に発足以来、教授法の情報交換、セミナー実施など日本語教師としての研鑽に熱心に取り組まれています。欧州各国に存在する日本語教師会のほとんどは、日本人が代表していると聞きますが、当国の日本語教師会の代表はハンガリー人のアンナ・セーカーチ先生であり、この事もハンガリー人が日本語教育に主体的に関わっておられることを示しています。また、ハンガリー日本語教師会が、2002年、ブダペストでのヨーロッパ日本語教育シンポジウム開催を引き受けられたことも、ハンガリーが欧州における日本語教育の発展に貢献していく決意を示したものと思われまます。

外国語の学習は、決して簡単なものではありません。一定の時間がかかるものであり、その間に学習意欲を高く維持していくことは必ずしも容易ではありません。そういう難しい外国語学習の過程で、学習者自身の意欲はもとより、その意欲を引き出し、伸ばしていく先生方の役割は極めて重要です。世界には無数の言語があります。その中から日本語を学ぼうとする学習者に対し、日本語教師の方々は日本語のみならず、日本文化への案内者の役割を担っています。グローバル化が進化する今日の世界にあって、日本語の先生方が、複数の言語がもたらす多様性は明日の人類社会の創造の源であるとの視点に立って、日本語普及に引き続き努力されますことを願っております。

アンナ・セーカーチ先生の下で、ハンガリー日本語教師会が強固な基盤を築かれ、将来に向けて更なる発展を遂げられますことを心から祈念致します。

MJOT代表挨拶

セーカーチ アンナ

ハンガリー日本語教師会二代目代表になりましたセーカーチ・アンナです。

ここ数年、ハンガリーでは日本語学習者が増えてきています。また日本語教育機関の広がりも見られ、それに伴いハンガリー人、日本人を含め、日本語指導者の数も増えてきました。本年2月、国際交流基金ブダペスト事務所の豊田所長、日本語教育アドバイザーの岩澤氏の強力なバックアップの元、ハンガリー日本語教師会は発足しました。日本語指導に関わる情報交換をしたり、一人一人が抱えている指導上の問題点を出し合い、その解決のために話し合ったり、また講師の先生を迎えての勉強会などを開催

したりと、地味ではありますが、有意義な会を重ねてきました。何もないところから始め、これまで会をリードしてきて下さった後藤史与前代表をはじめ、運営委員の皆さんに心から感謝します。

教師会では、日本語教育に関心をお持ちの方々の入会をお待ちしています。資格は特にありません。また現在ハンガリーで日本語を教えている方、将来教えたかと思っている方も大歓迎です。皆さんのご協力により、このハンガリー日本語教師会がもっと強力なネットワークに育っていくよう、努力していきたいと思えます。

また、来年2002年9月にはブダペストにおいてヨーロッパ日本語教育シンポジウムが開催される予定です。日本大使館を始め、関係各機関の皆様のご協力を仰がなければなりません。どうぞよろしく願い申し上げます。

去る9月28日に2001年度の定例総会が開催されました。当日やむをえず欠席された正会員、合わせて準会員、特別会員の皆様に会報の紙面を借りて議事録を掲載します。活動報告書・会計報告書・改正会則・最新会員名簿は全会員に郵送しましたので、送付済書類参照の上、ご確認下さい。

なお、国際交流基金ブダペスト事務所のご協力で、基金事務所内小会議室に教師会用の書戸棚をお借りしています。現在までの諸会議議事録、セミナー・勉強会等の報告書はファイルNo.1にとじ込んでありますので、会員の方はどうぞ自由に閲覧下さい。



ハンガリー日本語教師会 第2回定例総会議事録

書記：吉瀬 友佳子
(パ-リソト・マルソソ小中高校他)

日時：2001年9月28日(金) 16:00～

場所：国際交流基金ブダペスト事務所図書室

出席者：正会員26名中14名 過半数の出席で総会成立

議題1) 総会議長と書記の選出ー議長：後藤、書記：吉瀬

2) 2001年2月～9月の活動報告と会計報告(後藤)

- ・活動報告は別紙参照
 - ー活動報告書にMailing Listの作成を追記(若井)
- ・会計報告は別紙参照

2001年度(2001年9月～2002年8月)の活動計画

- ・発行できなかった教師会会報を次期運営委員会に委託
- ・2002年欧州日本語教育シンポジウム・ブダペスト大会の実施
- ・セミナーの開催
- ・座談会「高校卒業試験を考える会」を継続

3) 教師会会則修正案

- ・第2条、第4条、第5条の修正案提案(相馬)
 - ー第2条(目的)修正案 賛成多数で議決
 - ー第4条(会員)会員の種類は現行のままとする
ただしハンガリー在住でない会員は特別会員とする
 - ー第5条(会費)現行のままとする
- ・第8条の修正案提案(後藤)
 - ー第8条(役員)修正案 賛成多数で議決

4) 役員改選

- ・運営委員：代表1名 Székacs(立候補)ー反対なし
補佐2名 相馬(立候補)ー反対なし
後藤(推薦)ー反対なし
会計1名 佐藤(立候補)ー反対なし
- ・会計監査 1名 若井(推薦)ー反対なし

5) 2002年欧州日本語教育シンポジウム・ブダペスト大会に関して(佐藤)

- ・決定事項：日時；2002年9月6、7、8日
場所；ブダペスト商科大学貿易学部
テーマ；多元化する日本語教育＝日本語教育とコミュニケーション＝
- ・シンポジウム実施のための実行委員会を発足させる

連絡・その他 ①日本語能力試験の申し込み締め切り迫る(若井)

②スピーチコンテストに関するセミナー開催の案内(岩澤顧問)

③井上客員教授のセミナー開催を希望、その他会員の希望を代表か顧問まで(セ-カチ)



「高校卒業試験を考える会」

—中間報告—

カーロリ大学 伊東 隆作

第1回ハンガリー日本語教師会総会では、多岐にわたるハンガリーの日本語教育における問題や課題などが実際の教育現場から提示された。その中の1つが高校における卒業試験についてであった。

これまでは各高校が日本語教師の個人的な関係だけをもとに情報を集め、卒業試験に取り組んできた。高校で教える教師でさえ、卒業試験制度の変化などに対応することは個人的な関係を持っているという事が、大きな要素であり、そのようなものを持たない赴任したばかりの教師や、まして高校以外で教える教師達にとって、この高校の卒業試験という全体があいまいであり謎に包まれていた。(もちろんそれは卒業試験のルールとして秘密厳守という原則があるのだが、それでもやはり個々の教師レベルでの秘密厳守の壁を越えてやってくる情報量の差はとて大きいものであったと考えられる。)

このような状況の中で何よりも必要とされたのは日本語教師会として情報を共有することであった。そのようなテーマを持ち5月に行われた第1回卒業試験を考える会は以下の3つの議題をもとに進められた。

- ①卒業試験を行っている、または今後行う可能性のある教育機関の日本語教育状況の報告。
- ②卒業試験について各教師が持つ情報を突き合わせて卒業試験の全体像を明確にする。
- ③卒業試験における問題点を明らかにする。

この会議の中で卒業試験の制度が変わってきていることと、それに対応できるような情報が不足している事が明らかになった。(具体的事項は議事録を参照)

- ・ そしてさらにそれを受けて6月の末に行われた第2回では次の3点をテーマに話し合いを行った。
- ・ ①今年行われた卒業試験の結果の報告。
- ・ ②今年度の問題の分析。
- ・ ③前回提示されたいくつかの問題にどのように対応していくか。(具体的事項は議事録を参照)

このような流れの中で、今後の「高校卒業試験を考える会」の具体的活動は、高校の横のつながりを深め情報を共有するシステム作り、高校レベルにおける日本語学習者の到達レベルの明確化の2点に集約されていこうと考えられる。情報を共有していくことは、どの教育機関でも学習者がある程度同じ条件で卒業試験が受験できることを意味するし、到達レベルを明確にすることは、卒業試験に出題される問題の適当性につながっていくはずである。

そして「高校の卒業試験を考える会」は、大学進学情報の共有、卒業試験を通しての学習者の学力の分析、多様化する学習者の受け入れの協力体制などをさらに発展させる可能性を持っている。

最後に、「卒業試験を考える会」だけでなくハンガリー日本語教師会が抱える本質的な問題として、このような国家レベルのシステムに対して教師会がどのような立場で関わっていくかということが挙げられる。現時点でハンガリー側の窓口さえ見つかっていないのが現実であるが、このような政治的な側面に対してどう対応していくか、これも私たちが解決していかななくてはいけない問題である。私個人の意見としては、「卒業試験を考える会」などの内からの活動と、組織作りや、ハンガリー政府との関係作りなどの外からの活動のバランスが今後のハンガリー日本語教師会の価値を決定付けていくものになると思っている。



「第14回日本語教育連絡会議」

第14回日本語連絡会議事務局

カーロリ大学 若井 誠二

8月2日・3日、カーロリ・ガーシュパール大学講堂で第14回日本語教育連絡会議が開催されました。

この会議は元々東欧諸国の日本語教師たちの情報交換の場としてスタートしたもので、当初はお互いの国の生活情報（何がどこでいくらで買えるか）を知ること重要な目的だったようですが、数を重ねた現在では旧東欧諸国だけではなく西ヨーロッパそして日本からも専門家が集まり、お互いの実践および研究成果を発表する場となっています。

当日はこの夏一番の暑さとなり会場内もまるで蒸し風呂のようでしたが、会議ではその暑さを吹き飛ばすような力強い発表が続きました。ハンガリー日本語教師会からは商科大の佐藤紀子さんが「ハンガリーのビジネス日本語検定について」、同じく商科大の橋本ゆかりさんと国際交流基金ブダペスト事務所の岩澤和宏さんが「口頭発表指導について」、そして小生も「ハンガリー人への読点指導について」のテーマで発表を行いました。更に筑波大学名誉教授の林四郎先生には「日本語漢字の働く姿」というテーマで、そして東京外国語大学教授でありカーロリ大学客員教授として来訪した井上史雄先生には「言語の市場価値計測法」というテーマで講演をしていただきました。

この会議の隠れたメイン・イベントと呼ばれている懇親会は、2日夜に国際交流基金ブダペスト事務所の主催により開かれました。会場では、和やかな雰囲気の中、お互いの情報交換にはげみました。

機材がうまく動かないなど多少のゴタゴタはありましたが、会議は大きなトラブルもなく進行し、イギリスのダーラム大学で来年の会議が開かれることが決まり、無事幕を閉じました。

今回はカーロリ大学が事務局となりましたが、実際にはハンガリー日本語教師会におんぶにだっこの形となりました。特に暑期中、会場の準備や買い出しを手伝ってくださった会員の皆様には感謝しております。

(ありがとうございました!) また、懇親会に関する一切を引き受けてくださり、また準備金も援助してくださった国際交流基金ブダペスト事務所豊田所長、そして会議全般にわたり貴重なアドバイスをいただいた同事務所岩澤日本語教育アドバイザーにもこの場を借りてお礼申し上げます。

来年夏には商科大学でヨーロッパ日本語教育シンポジウムが開かれます。また一緒に盛り上がりましょう!

ヨーロッパ日本語教師会についてのご案内

Association of Japanese Language

Teachers in Europe (AJE)

設立の背景と経緯

国際交流基金は平成元年より毎年11月下旬より4週間にわたり浦和日本語国際センターにて海外で教職につく日本語教師を対象に「在外邦人日本語研修」を実施しており、世界各国の教師が日本語教育に関する研修と情報交換をしてきた。

平成6年にヨーロッパ11カ国より参加した13名の教師はヨーロッパにおける日本語教育が他に比べて歴史が浅いばかりではなく発展・充実の過程にあることを実感すると共に現状の日本語教育を更に拡充、定着させるためには教師間の情報交換・連帯が求められていることを痛感した。そこで、1995年の「在外邦人日本語研修」のヨーロッパからの参加者全員に呼びかけ、1996年にヨーロッパ日本語教師会の設立総会がオランダ・マーストリヒトにて開催され、会が正式に設立された。

(ホームページ <http://www.e-aje.org> 紹介文より抜粋)

本年はヨーロッパ日本語教師会(AJE)と英国日本語教育学会(BATJ)が共催で9月上旬にイギリス・ケンブリッジ大学で『第6回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム/第4回BATJ発表大会』を開きました。

『第7回欧州日本語教育シンポジウム』はハンガリー日本語教師会(MJOT)と上記教師会共催で、ブダペスト商科大を会場に2002年9月6日~8日に開かれます。ハンガリーにおける日本語教育のみならず、ヨーロッパ各国の先生との交流や情報を求める方はAJEのホームページを開いてみてはいかがでしょうか。

MJOT会報第1号

発行: 2001年12月

発行人: ハンガリー日本語教師会

連絡先 Budapesti Gazdasági Főiskola

Külkereskedelmi Főiskola kar

1165 Bp. Diósy L. u. 22-24

MJOT elnöke Székacs Anna

e-mail: mjot@m1-b1.infoseek.co.jp (日本語可)

編集/文責: 後藤史与